

んのなくなられた時に、告別式に行つた事を思ひ出した。その日は
非常な大雪であつた事も思ひ出した。そして、今年の上半期は色々
事件の多かつた事なども思ひ出したのであつた。

私はつくづく感じたのであるが、人間といふものは生きてゐるう
ちだけでなくて、死んでから後も、このお墓のやうに無限に永いこ
とを思はせられた。そして、このお参りを濟ませて、學校に引きか
へして、早速その日から授業が開始された。考へて見れば随分變化
のある入學式であつたと、私は思つた。

〔同聲會報〕第三二二号 昭和十二年二月 二八〜二九頁

昭和十一年六月十日

東京音樂學校長 乘杉嘉壽

編輯局長殿

拜啓 貴社益々御隆昌奉賀候陳者今般音樂文化ノ向上ト日本精神ノ
作興トニ資スル目途ヲ以テ本校ニ邦樂科ヲ新設セラレ來ル七月ヨリ
授業ヲ開始スベキ豫定ニ御座候惟フニ邦樂ハ我が國民精神ノ發露ス
ル所ニシテ國民的情操陶冶ノ爲メ教育上之ヲ等閑ニ附スベカラザル
モノニ有之候處從來本校ニ於テハ僅カニ選科ノ一部ニ於テ極メテ初
歩ノ教授ヲ爲スニ止マリ候ハ甚ダ遺憾トスル所ニ御座候仍テ今回新
タニ本校ニ邦樂科ヲ設置シテ之ガ教授并攻究ヲ行ヒ以テ洋樂ノ教授
研究ト相俟ツテ本校設立以來ノ理想タル新國樂創成ノ方策ヲ樹立ス
ルコトト致シタル次第ニ御座候就テハ別紙入學案内御送附申上候間
可然記事御掲載被下度此段御依頼申上候

敬具

昭和十一年六月十一日

東京音樂學校長 乘杉嘉壽

殿

拜啓 時下益々御清適賀上候陳者今般音樂文化ノ向上ト日本精神ノ
作興トニ資スル目途ヲ以テ本校ニ邦樂科ヲ新設セラレ來ル七月ヨリ
授業ヲ開始スベキ豫定ニ御座候就テハ別紙入學案内御送附申上候間
可然御取計相煩度此段御依頼申上候

敬具

昭和十一年六月十二日

東京音樂學校長 乘杉嘉壽

中等學校長殿

拜啓 時下益々御清適賀上候陳者今般音樂文化ノ向上ト日本精神ノ
作興トニ資スル目途ヲ以テ本校ニ邦樂科ヲ新設セラレ來ル七月ヨリ
授業ヲ開始スベキ豫定ニ御座候就テハ別紙入學案内御送附申上候間
乍恐縮貴校生徒並最近ノ卒業生ニ對シ周知方可然御取計相煩度此段
御依頼申上候

敬具

〔謄写版〕〔庶務課關係書類 昭和八年〕

(六) 師範科卒業生に関する校長訓話(昭和十四年)

昨年配當の師範科卒業生の成績報告に基き希望を述べ

乗杉嘉壽

本年三月本校を卒業せられた方は本科四十五人、師範科四十一
人、邦樂科十七人であつて、總數に於て實に百三人の多數に上り、
このやうに卒業の榮譽を擔はれる方が年々次第に増加して行く事は

我國音樂文化の發展の爲に慶賀に堪へぬ所である。而して右の中卒業後直ちに教職に就かれた方は甲種師範科卒業者に於て三十八人、本科卒業者に於て十九人、邦樂科二人、合計五十九人を數へ、この方面に於ても漸時増加の趨勢にある。然し現下の音樂教員需給關係から云へば、本科の人達が地方にゆくことを好まず又師範科一組四五十人の人數位では不足であつて、遺憾ながら各學校からの要求に應じ切れぬ有様である。

扱て一國の音樂文化の向上を促進する爲には諸種の音樂事業に従事せられる方々が各自夫々の立場に於て努力される事が大切であるが、この運動の中心力を成すものは何うしても中央、地方の諸學校に在つて、直接音樂指導に當られてゐる音樂教員諸君の活動に待たねばならぬ此の事は余が從來屢々説いた所である。優良音樂教員の養成に就いては、我邦音樂興隆の原動力として余の最も重大な任務でもあり又關心事でもある、夫故中等學校音樂教員養成の唯一の機關としての本校甲種師範科の教育に就いては勿論本科及邦樂科の教育についても常に之に聯關して特に意を用ゐてゐる次第である。又生徒在學中のみならず、一旦教員として配當した後にも於ても、その動靜に就いては深い關心を持つてゐるのである。従つて卒業者諸君から寄せられる奉職校の様相感想等を記された通信は喜んで拜見し、又中等學校長來校の際は音樂教育の状況を詳しく聴取するは勿論機を見て自分を始め教職員をして親しく是等地方の諸學校を訪問せしめる様にしてゐるのである。

所で最近の卒業就職者に就いて見るに勤務狀況は一般に良好のやうで洵に喜ばしい限りである。この事は勿論健康状態と密接な關係

のある事であるから、健康状態も概して良好であると推測する事が出来やう。然し新卒配當教員の中には毎年病弱のため勤務状態の不良なる者も一、二名あるやうである。病氣のため缺勤が多かつたり、赴任後一年にも満たないのに休職を願出ると云ふ様な事は本人も残念であらうが、奉職學校側にとつて洵に迷惑であり、且つ又當人を推薦配當した本校として義理合上申譯ない次第である。健康については精々自愛せられて、明朗快活に教務に精勵して頂き度いものである。殊に初任者にあつては環境や生活が頓に一變する譯であるから、吳々もこの點について注意が肝要と思ふ。

次に授業成績に關して傳へ聞く所に依ると、概して良好と認められ、これ亦喜ぶ可き現象と言はねばならぬ。授業成績の如何は教師の専門技術の巧拙に由る事多大である。本校在學中に諸君が専心研鑽せられた努力の成果が就職後の授業成績の上に現れ、これが漸時顯著となつて來た事は余の大いに愉快とする所である。然し又成績の良否は啻に専門技術の巧拙に由るのではない。音樂教育に對する熱意と教授技術に對する不斷の研究が必要である。特にこの點を問題にすれば未だ充分であるとは申せない節もある。最近の配當教員の中にも小數ながら授業に對して不熱心なる者、研究心なく、授業能力を發揮し得ざる者があるやに聞き及んでゐる。勿論初任者にあつては、經驗淺き爲に、授業の成績を擧げ得ないと云ふ様な向もあらうが、熱意、研究心の不足せる者に至つては誠に遺憾に堪へない。これは根本に於て音樂教師としての自覺の不足に基くものと思ふ。音樂文化の負擔者であり、指導者であると云ふ自覺、信念を今一度反省し、之を堅持して貰ひたいものである。

近年は中學校初年級に於て音樂を正課として課する關係上、二校兼務を命ぜられる事が頓に多くなつてゐる。従つて授業時間も大抵十七、八時間が普通のやうであるが、中には二十五、六時間に及ぶものもある。否夫れのみか樂器練習の指導の爲めに夕方暗くなるまで働かねばならぬ處が少なくない様である。又女子にあつては音樂科以外に國語、作法等を兼擔する向もあり、尙授業以外に學級擔任、校務諸掛、校友會役員等を命ぜられる、者の數も比較的多いことである。夫れ故音樂教員が他の教員に比べて極めて勞苦の多いことは萬々承知して居る次第で常に我が卒業生諸君の奮闘に多大の敬意と感謝を捧げて居る然るに從來共音樂科教員は授業以外の擔任事項に關して極めて不熱心であるとの嘆聲を學校長邊りから聞くのは甚だ遺憾である。これ亦教師としての自覺の缺乏に基因するものと考えられる。音樂教員は言ふ迄もなく又學校職員の一員でもある、いかにその仕事が多くても音樂の教授以外に校務、生徒の訓育指導を分擔すべきものである。音樂の授業や指導のみを以て能事畢れりとなすが如きは不心得も甚しいと言はねばならぬ。余は音樂科教員は他學科の教員に率先事に當る底の意氣込を以て授業以外の擔任事務を遂行されるやう要望して止まないのである。要は教室の内外を問はず、職員の一員であり、生徒の指導者である事を銘記して貰ひたい。往々女子教員について聞かされる服裝、身躰の地方習俗に適合せず等と云ふ非難の如きも亦覺悟の不足に由るものであらう。何うか余の意を體して良き教師、良き指導者として職責を盡して頂きたい。

本年の新卒業者の配當を終つたこの機會に、いさゝか希望を述べ

て一般音樂教員諸君の注意を喚起する次第である。

〔同聲會報〕第二四九号 昭和十四年五・六月 一二〜一四頁

(七) 創立六十周年記念事業 (昭和十五年十一月)

創立六十周年記念式と記念演奏会のプログラムについては、本百年史『演奏會篇第二卷』五七六〜五八一頁に掲載済みである。ここでは行事書類をまとめた『昭和十四年十一月 六拾周年行事書類 第一册 東京音樂學校』および『同 第二册』より関連資料を補う。書類には依頼状や上申案、各種記録などの手書き資料が含まれるが、學校長式辞案や祭文については『同聲會報』より転載する。

本行事の一環として同声會主催による「教育音樂研究大會」が行われた。書類第二册の内容はこれに關するものである。

記念式次第

- | | | |
|--|--|--|
| <p>金子</p> <p>一、「全員最敬禮」「直レ」
(號令)</p> <p>一、「來賓並職員、卒業生、廻レ右ヲ願ヒマス(起立ノ儘)」
(呼稱)</p> | <p>井出</p> <p>一、「宮城遙拜」
(呼稱)</p> <p>一、「來賓並職員、卒業生起立ヲ願ヒマス」
(呼稱)</p> <p>一、「廻レ右」「斜左向」
(號令)</p> | <p>金子</p> <p>一、學校長、大臣ヲ案内入場ト共ニ「職員並卒業生起立」
(號令)</p> <p>一、學校長並大臣定席前ニ立タレタトキ「禮」
(號令)</p> <p>一、「職員並卒業生着席」
(號令)</p> <p>一、「コレヨリ記念式ヲ舉行致シマス」
(呼稱)</p> |
|--|--|--|